

<ニュース提供元：犬ニュース01(ゼロワン), TRAVEL VISION INC>

[掲載日:2007/09/11]

全日空(ANA)は、9月30日までの夏期に中止していた短頭犬種の預かりを、10月1日から再開する。

外気温が下がることで当該犬種でも体調に変調をきたす恐れが少なくなるとの専門家の見解を得たもの。

対象便はグループが運航する国際貨物を除く、国内線と国際線の全便。

2008年の夏期の取扱は、08年2月までに決定する。

対象犬種は下記の通り。

#### ▽対象犬種

ブルドッグ、フレンチブルドッグ、ボクサー、シーズー、テリア系(ボストン・テリア、ブルーテリア)、チャウチャウ、パグ、チン、スパニエル系(キング・チャールズ・スパニエル、チベタン・スパニエル)、ブリュッセル・グリフォン、ペキニーズ

---

< 当店より >

上記の内容は、昨年8月12日の真夏の夜間空輸(JAL)にて、『ペットとお出かけサービス』を利用した際に起こった事件が発端となり、流通の上、ようやく今年になって明るみに出た記事が元になっています。

### [ペットとお出かけサービス](#)

上記を利用したのは、フレンチ・ブルドッグでした。

### [フレンチ・ブルドッグ／ビスコの日記](#)

『ビスコの日記』では、通常ペットは貨物室にいるため、上空では気温が下がるのに伴い加温しますが、飛行機が動き始めてから離陸するまでの平均15分は、暑くなり過ぎる可能性がある、との内容です。

この件があってからJALでは、約1年後の今年7月20日より、  
“通年にわたり、フレンチ・ブルドッグおよびブルドッグはお預かりできません”  
としています。

## 動物輸送について (JAL)

また、上記ページに、事件当初は掲載されていたという内容で、  
“フレンチブルドッグ、ミニチュアダックス等の短頭種犬(顔が短い=舌が短い)や、  
足の短い犬種につきましては、地表温度が胴体に直接伝わりやすく、体温発散の効率が悪い  
ため、衰弱事例が多く報告されておりますので特にご留意下さい”  
との文面が、現在は記載されておられません。

ミニチュア・ダックスとは、上記、フレンチ・ブルドッグ搭乗の翌日に搭乗されたダックスも、  
他界していることからのものと思われる。

-----  
当店では、“ご購入の流れ”でも記載してあります通り、開店当初より“ANA”をメインと致しております。  
ですが、この件を受けたANAに伴い、  
**8月1日～9月30日まで、上記犬種の空輸取り扱いを停止**  
させて頂く事になりました。  
ANAの記載は、以下の通りです。

また幸いにも、昨年、及び今年に至るこの期間中、上記犬種の取次ぎは御座いませんでした。

※陸送は今まで通り、変更は御座いません。  
**7月1日～9月30日まで、全犬種・全猫種の取り扱いを停止**

陸送、及び、空輸停止期間中についてのお取引に関しましては、“ご購入の流れ”にあります、  
～④輸送について～を、ご覧下さい。

## ブルドッグなど短頭種犬のお預かり中止について (ANA・2007. 7. 23付)

## ブルドッグなど短頭種犬の10月以降のお預かり再開について (ANA・2007. 9. 10付)

## 航空機における輸送環境について (ANA・2007. 9. 10付)